

# 九州大学芸術工学府デザイン基盤センター 工作工房の施設紹介と業務内容

九州大学 芸術工学府  
デザイン基盤センター工作工房  
技術専門職員 徳永 伸彦

## 1 工作工房棟

### 1.1 施設の概要

昭和 45 年に旧九州芸術工科大学の教養教育実習施設として設立。主に基礎造形などの授業や卒業研究などで使用され、学生たちはこの施設で機器や工具の使い方、工作過程等を学ぶ。

### 1.2 施設の構造

- 1 階 木材や金属の加工作業場、電気溶接作業場 等
- 2 階 ガス溶接作業場、原型制作室 等
- 3 階 塗装用作業場、模型制作室、試作組立室、作品展示室 等
- 屋外 ピロティ（多目的屋外作業場）等

## 2 主な設置機械および工具

### 2.1 設置機械

大型パネルソー、丸鋸盤、帯鋸、足踏切断機、卓上ドリル、大型フライス盤、自動旋盤、自動かんな、溶接機、塗装ブース 等

### 2.2 工具

木工用やすり、金工用やすり、木工用手鋸、金工用手鉋、金槌、サンダー、グラインダー、電動ドリル、タッカー 等

## 3 業務内容

### 3.1 授業支援

授業で使用する作業場や工具等の準備、機器の動作確認を行い、授業中は学生が使う機器の説明や安全面において支援を、また授業後は使用した機器や工具などの片付けに不備が無いかなどの確認を行う。

### 3.2 管理室における業務

施設利用届けの受け付け、工具の貸し出しや返却の確認等を行う。

### 3.3 機器整備

工房内の設置機器、工具について動作確認、清掃、整備点検を行う。

### 3.4 清掃

清潔な施設、作業空間の確保や安全面など、より良い作業環境づくりのために施設全体の清掃を行う。

## 4 安全対策

機器の使用前後には必ず点検を行う。

作業中に危険な状況がみられた時は、工房内スタッフ全員に周知し、対策を検討する。

学生が誤った機器や道具の使い方や、工作作業には適さない服装等をしているときは注意をする。

## 5 今後の課題

ものづくりの経験が浅い学生が増える中、機器や道具の使い方等の説明をどう的確に伝えるか。

建物の構造が特殊であるため、道具の盗難防止や施設の無断使用などのセキュリティの強化をどう行うか。